

身近な地域資源を活かしたまちづくりの  
実践方策に関する研究

～姪浜でのまちづくり活動と地域づくりを巡る小さなまち旅を通して～



(公財) 福岡アジア都市研究所 会員研究員 (福岡市職員)  
唐津街道姪浜まちづくり協議会 初代事務局長  
大塚政徳



唐津街道姪浜まちづくり協議会卒業直後に熊本地震で甚大な被害を受けた熊本城を訪問(平成 28 年6月)。  
これをきっかけに「地域づくりや建築の原点に戻る旅」と「熊本の復興の過程を巡る旅」をスタートした。



筆者が「地域づくりや建築の原点に戻る旅」の出発点として選んだ三角西港(平成 28 年7月)。  
熊本大学時代の筆者の卒業研究のフィールドであり、思い出の場所である。

※表紙写真: 筆者の姪浜での最後のプロジェクトとなった「春のまち旅 2016」の様子(平成 28 年3月)

## はじめに（研究の目的）

筆者は、福岡市西区姪浜で活動している「唐津街道姪浜まちづくり協議会」の初代事務局長の役を担った（平成 19 年 3 月～28 年 5 月）。この間、『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』を目標に、地域固有の歴史・文化資源を活かしたまちづくりを推進してきた。姪浜への熱い想いを込めた 10 年間の活動は、「都市景観大賞（国土交通大臣賞）」や「ふるさとづくり大賞（総務大臣賞）」等として評価され、姪浜の魅力や協議会の活動を全国に発信することができた。

また、筆者個人にとっても、姪浜という地域は魅力的なフィールドであり、10 年間の活動はとても充実したものであった。そして、地域内外の多くの方々との出会いが、筆者の活動のエネルギーであり、精力的な活動で得たものも多かった。

筆者は、10 年間の活動で多くの成果を上げたこと及び今後の地域づくり活動に向けて筆者自身のステップアップを図るため、平成 28 年 5 月末、協議会活動 10 年という節目を機会に協議会を卒業した。ある知人からいただいた「市役所でのいろいろな経験、そして 10 年にわたる姪浜での地域づくりの経験を活かして、いろいろなフィールドで活躍してほしい」というアドバイスも、協議会卒業を決断する大きな後押しとなった。

また、時を同じくして起こった熊本地震の影響も大きい。熊本地震の直前に訪問した熊本城、阿蘇神社、阿蘇大橋、南阿蘇村等が大きな被害を受け、様変わりしてしまった。福岡市役所で建築物の耐震化促進の担当もし、大学時代を熊本で過ごした筆者にとっては、『建築物の耐震化は重要な仕事である。大学時代の恩返しをしよう。地域づくりの原点に返ろう。姪浜だけでなく、もっと大きな視点で世界を見てみよう。』というメッセージのように思えた。

まず、協議会卒業直後の平成 28 年 6 月から始めたことは、家族や姪浜の活動でお世話になった方々、身近な地域資源を活かしたまちづくりに関わる方々に筆者の姪浜や地域づくりへの想いを伝えていくため、今までの事務局長としての活動を振り返り、それを記録としてまとめることである。その成果として、(公財)福岡アジア都市研究所の平成 28 年度の会員研究で「身近な地域資源を活かしたまちづくり活動記録～姪浜での 10 年の実践活動を中心とした、建築と地域づくりへの想い～」を作成した。

また、同時に「地域づくりや建築の原点に戻る旅」と「熊本の復興の過程を巡る旅」を始めた。これは、姪浜での 10 年間のまちづくり活動を振り返る旅であり、次の二毛作目の人生に向かって自分を見つめ直す旅でもある。初めての場所もあるし、思い出の場所もある。大学の卒業研究で関わった場所もあるし、建築を志した時に訪れた場所もある。いろいろな地域を旅し、その魅力を体感することは、地域づくりを考える上で大いに参考になるし、新たな出会いもある。特に、大学時代の思い出の多い熊本の復興の過程を見に定期的に熊本を訪問している。

今回は、平成 28 年度に作成した活動記録をブラッシュアップするとともに、今まで訪問してきた地域の中から特に印象に残る取り組みを振り返り、「身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践方策に関する研究」として研究を進めていくものである。特に、都市化に埋没し、地域の個性や特徴が見えにくくなっている国内の大半の地域における身近な地域資源の活用策について、

筆者が精力的に取り組んできた姪浜の事例を踏まえながら提案していきたい。

また、まちづくり協議会のあり方について、筆者が唐津街道まちづくり協議会の事務局長として重要だと感じていた「ヒト」「モノ」「コト（ストーリー）」「巻き込み力」を中心に、筆者が訪問した地域の事例を踏まえながら検証・提案していきたい。

本研究で紹介するのは、公務員（福岡市職員）でもあり、建築士でもある筆者が景観行政の知識と経験を活かし、業務の枠を超えて地域づくりや景観づくりに取り組んできた事例、そして実際に訪問し体感体験した事例である。まちづくり事例としてだけでなく、公務員や地域づくり・建築に関わる皆さま方の今後の生き方の参考にさせていただければ幸いである。

なお、「本稿の構成と各章の要約」は次のとおりである。

### 【本稿の構成と各章の要約】

まずは、筆者が精力的に取り組んできた唐津街道姪浜まちづくり協議会の活動の概要と、活動の中で事務局長として工夫したこと、継続的で多彩なまちづくり活動で得た成果を述べる（第1章）。

次に、筆者が実際に市役所の業務として携わった地域や今まで訪問した地域における、身近な地域資源の活用策やまちづくり団体の活動状況について紹介する（第2章）。

最後に、それらを踏まえ、「身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践方策」や「新たな課題や動向を踏まえた、今後の姪浜のまちづくりの展開方策」について筆者の提案を述べる（第3章）。

この他、まちづくり協議会卒業と同時に始めた「地域づくりや建築の原点に戻る旅」と「熊本の復興の過程を巡る旅」を手記として、また、公務員や建築士、地域づくりに携わる皆さま方へ伝えたいことをメッセージとして、さらに、各章の中で補足的なことなどをコラムとして紹介する。

ページ数は多いが、各章ともできるだけ読み切り形式にしているので、興味のある部分だけでも読んでいただければ幸いである。

平成29年7月

# 身近な地域資源を活かしたまちづくりの

## 実践方策に関する研究

～姪浜でのまちづくり活動と地域づくりを巡る小さなまち旅を通して～

### 目次

はじめに（研究の目的）	1
<b>【第1章】</b> 姪浜でのまちづくり活動とその成果	
1 筆者が精力的に取り組んできた唐津街道姪浜まちづくり協議会の活動の概要	6
（1）筆者と姪浜	
（2）宝のまち・姪浜～姪浜の歴史と魅力～	
（3）活動のきっかけとねらい、協議会の体制	
（4）唐津街道姪浜まちづくり協議会と筆者の10年の歩み	
（5）活動概要	
（6）主な活動内容一覧	
2 活動のポイントと継続的で多彩なまちづくり活動の成果	17
（1）活動のポイント（事務局長として工夫したこと）	
（2）継続的で多彩なまちづくり活動の成果	
<b>コラム1</b> まちづくり活動の思い出	25
<b>【第2章】</b> 地域づくりを巡る小さなまち旅を通して	
3 思い出に残る地域・集落	27
4 身近な景観づくりの取り組み	29
（1）北部九州の身近な景観づくりの取り組み	
（2）福岡市御供所地区	
5 思い出に残る地域づくりの取り組み	39
（1）長野県小布施町	
（2）新潟県村上市	
（3）秋田県横手市増田	

6 まちなみネットワーク福岡に所属する団体の取り組み	57
(1) 八女市八女福島	
<b>コラム2 行政マン&amp;地域のまちづくり人としての筆者の目標</b>	<b>64</b>
(2) 大川市小保・榎津	
(3) 福津市津屋崎	
(4) 飯塚市内野	

**【手記】まちづくり協議会卒業をきっかけに始めた二つのまち旅** ..... 80

(1) 地域づくりや建築の原点に戻る旅	
<b>コラム3 外海集落と崎津集落</b>	<b>82</b>
<b>コラム4 建築の原点に戻る展覧会</b>	<b>84</b>
(2) 熊本の復興の過程を巡る旅	
<b>コラム5 熊本市新町・古町地区の現状</b>	<b>88</b>
<b>コラム6 南阿蘇村 免の石</b>	<b>89</b>

**【第3章】 身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践方策・展開方策の提案**

7 身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践方策の提案	91
(1) 各地域のそれぞれの魅力資源を活かしたまちづくり	
(2) 地域に根ざしたまちづくり協議会	
<b>コラム7 事務局力</b>	<b>98</b>
(3) 地域内の各団体の連携による活動の広がり	
(4) まちづくりの課題や段階（ステージ）に対応した取り組み	
(5) 身近な地域資源を活かしたまちづくりの実践に向けて	

8 新たな課題や動向を踏まえた、今後の姪浜のまちづくりの展開方策の提案	110
(1) 姪浜を取り巻く新たな課題・動向と筆者の提案（一覧）	
(2) 具体的な課題・動向と対応案	

<b>コラム8 日本海を隔てた広域交流の提案</b>	<b>138</b>
----------------------------	------------

**【提言に代えて（筆者からのメッセージ）】** ..... 140

- (1) 公務員の皆さま方へ ～自治体職員よ、地域に出よう！スキルを活かそう！～
- (2) 建築士の皆さま方へ ～建築士よ、地域に出よう！スキルを活かそう！～
- (3) 地域づくりに携わる皆さま方へ ～小さなまち旅の薦め～

おわりに	158
------	-----

参考文献等	161
-------	-----

## 【参考資料】 ※別添

### 参考資料1 筆者がまちづくり協議会活動期間中及び卒業後に訪れた主な地域・集落等

- (1) 伝統的町並み
- (2) 集落等
- (3) 路地等
- (4) 唐津街道ことりっぷ
- (5) 歴史的建造物
- (6) 現代建築
- (7) 印象に残るヒト、モノ、コト（ストーリー）

### 参考資料2 熊本の復興の過程を巡る旅

- (1) 熊本城
- (2) 阿蘇神社及び門前町
- (3) 阿蘇大橋及びその周辺、益城町
- (4) 熊本市新町・古町
- (5) 印象に残るヒト、モノ、コト（ストーリー）

### 参考資料3 まちづくりの課題や段階（ステージ）に対応した姪浜での取り組み事例集

- (1) 取り組み一覧
- (2) 取り組み事例集

### 参考資料4 姪浜まち旅プロジェクト計画（概要版）

【まち旅を進めていく背景】

【まち旅プロジェクトの実施に向けたモデル的試行】

【まち旅プロジェクト推進のための情報発信ツールの整備】

【姪浜まち旅プロジェクト計画】

注) 本稿における表現について

用語	本稿での表現
「空家」「空き家」	団体名称など固有名詞を除き「空家」としている。
「町家」「町屋」	団体名称や事業名称など固有名詞を除き「町家」としている。また、「第2章の5 思い出に残る地域づくりの取り組み」の(2)で紹介する新潟県村上市では「町屋」を使っており、「町屋」としている。
「町並み」「街並み」 「まちなみ」「街なみ」	伝統的な町家が軒を連ねている地域や城下町等では「町並み」、商店や現代的な建築物が立ち並ぶ地域等では「街並み」、広義の意味で使う場合は「まちなみ」としている。また、事業名称など固有名詞があるものについては、それを使用している（「街なみ環境整備事業」等）。
「町」「まち」	町名など固有名詞を除き「まち」としている。

## 1 筆者が精力的に取り組んできた唐津街道姪浜まちづくり協議会の活動の概要

## (1) 筆者と姪浜

平成17年3月の福岡県西方沖地震、それが筆者の人生の大きな転機となった。筆者の住む姪浜でも多くの町家や寺社が被害を受けた。被害を受けて改めて気付くというのは残念であるが、しかし、「姪浜にはこんなに素晴らしい歴史的資源が残っていたのか。まだ遅くはない。歴史的な環境を活かしたまちづくりを進める上で、これが最初で最後のチャンスだ。」と前向きに考え、地域関係者に声をかけ、2年後にまちづくり協議会を立ち上げた。筆者が49歳の時である。

それまで福岡市職員として長く景観行政に携わっていながら、自分が住む地域のことにはあまり関心がなかった。それからは今までの20年間を取り戻すかのように『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』を目標に精力的に活動を続け、地域から感謝状もいただいた。

30歳代後半までは、職場でも「セブンイレブン（朝7時から夜11時まで）」と言われるぐらいに働いたが、今後は、はやりりの二刀流ではないが、地域への恩返しを込めて、「人生は二刀流、二毛作」をテーマに息長く、そして仲間とともに楽しく地域活動に関わっていきたいと思い、様々な活動を精力的に展開してきた。



福岡県西方沖地震による姪浜での被害例：姪浜住吉神社(左)、伝統的町家建築(右)

## (2) 宝のまち・姪浜～姪浜の歴史と魅力～

姪浜は、人口150万人都市・福岡市の西区の中心的地域である。ややもすると通り過ぎてしまいそうな町並みであるが、じっくりと歩いてみると、町並みのそこそこにたくさんの「よかところ」を発見することができる。その中には先人たちから受け継いできたものもあるし、また、その上に新たに加えられたもの、生み出されたものもある。


先人たちから受け継いできたものの代表は、日本誕生の神話や神功皇后伝説、奈良時代や鎌倉時代からの歴史を持つ神社やお寺の数々、元寇防塁、小戸から生の松原にかけての白砂青松、江戸時代に栄えた唐津街道の町並み、港の風景などたくさんある。一方、姪浜駅周辺や海沿いの現代的な商業施設や高層マンション等は、姪浜の環境の良さや便利さが生み出した新たな風景である。

このように姪浜は新しいものと古いものが共存するまちであるが、区画整理によって新しく生まれ変わった姪浜駅周辺と、海辺のマリノアシティの間であって、ぽつんと取り残されたように歴史的な環境が残っている地域がある。ここが筆者らの主な活動地域で、宿場町、商人町、漁師町、寺町の4つの顔を備えた全国的にも珍しいまちである。その中央を東西に走る唐津街道を





中心に、数多くの寺社や古い町家、路地等が残り、今でも街道の名残りを感させる町並みが継承されている。






マリノアシティ






愛宕神社



小戸大神宮

姪浜駅



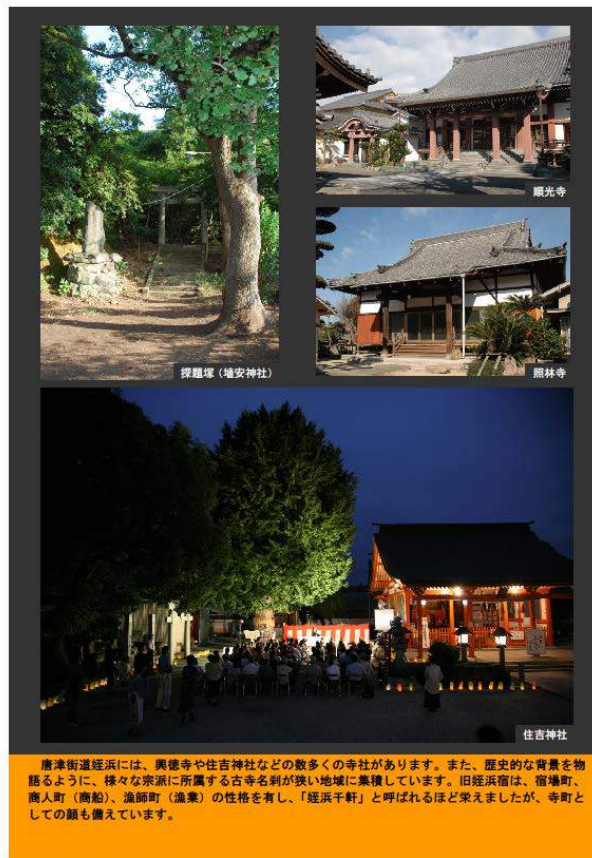
唐津街道姪浜の周辺には、愛宕神社や小戸大神宮などの歴史的資源の他、マリノアシティなどの新しい魅力スポットがあります。神話の時代（神功（じんぐう）皇后伝説など）と関わりが深いとされる小戸大神宮、中世の元寇防塁、近世の愛宕神社、現代のマリノアシティなど、いくつもの時代が交差し、様々な時代の歴史が息づいています。今後は、それぞれの魅力資源の連携による回遊ルートづくりと相互の活性化がまちづくりのテーマとなります。そのためには、中核となる唐津街道姪浜の魅力の創造と発信が求められます。

#### 新旧の魅力スポットを巡る姪浜の回遊ルート

「元気！姪浜計画」をもとに筆者作成(上)、筆者作成の「唐津街道姪浜 地域の魅力資源集」より引用(下)



唐津街道姪浜には、興徳寺や住吉神社などの数多くの寺社があります。また、歴史的な背景を物語るように、様々な宗派に所属する古寺名刹が狭い地域に集積しています。旧姪浜宿は、宿場町、商人町（商船）、漁師町（漁業）の性格を有し、「姪浜千軒」と呼ばれるほど栄えましたが、寺町としての顔も備えています。



唐津街道姪浜には、興徳寺や住吉神社などの数多くの寺社があります。また、歴史的な背景を物語るように、様々な宗派に所属する古寺名刹が狭い地域に集積しています。旧姪浜宿は、宿場町、商人町（商船）、漁師町（漁業）の性格を有し、「姪浜千軒」と呼ばれるほど栄えましたが、寺町としての顔も備えています。



唐津街道姪浜を特徴づけているものに、伝統的様式の町家があります。都市化の進展や福岡県西方沖地震の影響などで、次第にその数は減少していますが、今でも昔の宿場町の雰囲気を感じさせる町並みが継承されています。

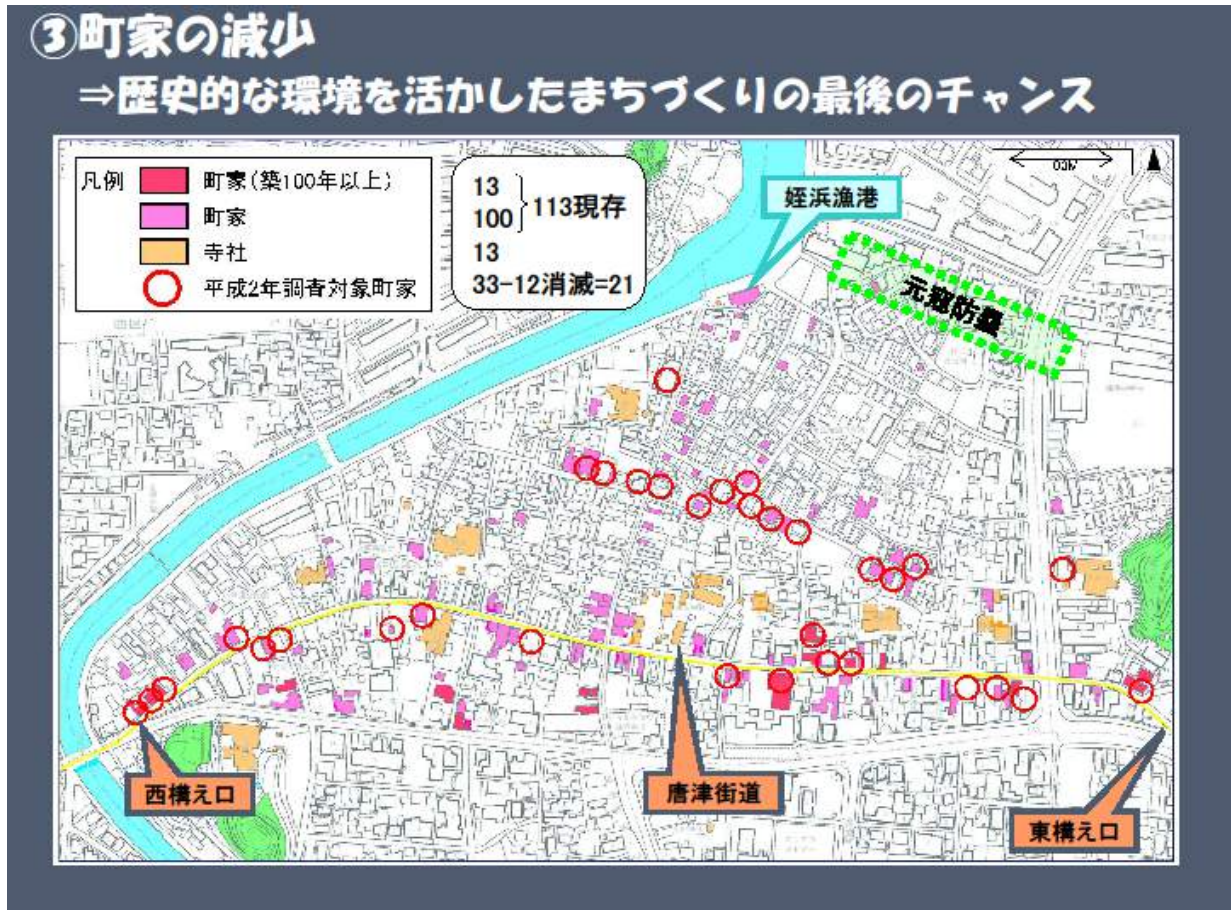


昔ながらの道の形も唐津街道姪浜の特徴です。鉤の手（かぎのて）と呼ばれる道の形は、防衛の手段として、敵が一気に攻め込みにくくするために、また、敵を追い詰めやすくするために城下町の入口や通りを直角に曲げたものですが、ここ姪浜でも随所にもその形跡が見られます。そして、塀や建物に囲まれた狭い路地空間も唐津街道姪浜の魅力です。ほっとする空間を私たちに提供してくれています。

姪浜の魅力資源（筆者作成の「唐津街道姪浜 地域の魅力資源集」より引用）

### (3) 活動のきっかけとねらい、協議会の体制

姪浜では、平成17年の福岡県西方沖地震の影響や都市化の進展等による町家の減少、マンションや駐車場の増加等により、地域固有の歴史的景観が次第に失われつつある。このような状況の中で、歴史的な環境を活かしたまちづくりを進める上で今が正念場であると考え、危機感を持って立ち上がった筆者を含む福岡市職員が中心となって、平成19年3月に「唐津街道姪浜まちづくり協議会」を立ち上げた。



姪浜の町家分布状況(平成19年5月現在。「博多津にぎわい復興計画研究会」と「唐津街道姪浜まちづくり協議会」による共同調査をもとに作成された資料より引用)



景観形成への配慮が望まれる高層マンション

また、全国どこに行っても同じような街並みの形成が進む中で、筆者には「姪浜を普通のまちにしたい」という強い想いがあった。「地域に埋もれている身近な魅力資源を掘り起こしていくことが、姪浜ならではの地域特性を活かしたまちづくり・景観づくりの土台となる」という考え方は、筆者の姪浜でのまちづくりの哲学である。これは一步も譲ることはできない。

姪浜の魅力資源は、多彩な歴史、伝説・物語、数多くの寺社・町家、狭い路地、海、港、魚市場、美味しい魚など数え上げるときりが無い。地域の人が見慣れて、当たり前だと見過ごしているものにスポットを当てていくことが、姪浜ならではのまちづくりを進める第一歩なのである。



筆者の姪浜でのまちづくりの哲学



武内宿禰伝説のある真根子神社

当初は地域外のメンバーを中心に十数名のメンバーでスタートしたが、最盛期には協力会員を含め 46 名がメンバーとして名を連ねていた。建築士、コンサルタント、福岡市職員、地方史研究家、写真家、大学生、地域住民等の多様な構成が特徴で、年齢的には 40～60 歳台の男性が中心であった。なかには、仕事や家庭の都合で一度姪浜を離れた人や定年後に姪浜に戻ってきた人が、筆者らの活動に刺激を受けて活動に関わり出した例もある。こうしたメンバーが「ばか者、よそ者、若者」の視点を大切にして、『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』を目標に、姪浜ならではの多彩な魅力資源を活かした地域協働のまちづくりを精力的に推進してきた。



多彩な魅力資源を活かした地域協働のまちづくりの推進

(4) 唐津街道姪浜まちづくり協議会と筆者の10年の歩み

年度 ステージ	活動の目標	各活動の開始年度			助成金（補助金）	表彰、認定
		イベント関連	計画策定、情報発信等	関連事業		
H18年度	設立準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■『博多津にぎわい復興計画研究会』として、講演会、まち歩き、姪浜での調査を実施。</li> <li>■H19.3.17の姪浜でのまち歩きイベント後に協議会設立を決定。</li> <li>■H19.3.26『唐津街道姪浜町並み・まちづくり活性化協議会』として福岡市職員有志を中心に設立。以降、地元メンバーを加える。H20.4.1に現在の『唐津街道姪浜まちづくり協議会』に名称変更。</li> </ul>				
H19年度	1st ステージ 地域の魅力の再認識と地域内外への発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>■まちづくり講演会・シンポジウム</li> <li>■景観歴史発掘ガイドツアー</li> <li>■みそ蔵コンサート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■定例会</li> <li>■地域の魅力資源調査</li> <li>■地域の魅力資源集作成</li> <li>■まち歩きマップの発行(順次改訂)</li> </ul>		●西区やる気応援事業補助金(福岡市)	
H20年度		■まちなみパネル展	■まちづくり先進都市調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>■『西区まるごと博物館』への参加</li> <li>■『唐津街道サミット』への加盟</li> </ul>	●西区やる気応援事業補助金(福岡市)	
H21年度		■灯明コンサート	<ul style="list-style-type: none"> <li>■町家再生の実践</li> <li>■まちの案内所開設(マイヅル味噌内)</li> <li>■旧町名表示板設置</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●西区やる気応援事業補助金(福岡市)</li> <li>●農業・地域協同活動支援基金(JA福岡市)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆農業・地域協同活動支援表彰(JA福岡市)</li> <li>◆福岡市都市景観賞(福岡市)</li> <li>◆ふくおか地域づくり活動賞(地域づくりネットワーク福岡県協議会)</li> <li>◆景観づくり地域団体認定(福岡市)</li> </ul>
H22年度	2nd ステージ 地域協働のまちづくり計画の策定 景観まちづくりの実践		<ul style="list-style-type: none"> <li>■『元気！姪浜計画』の策定</li> <li>■かわら版の発行</li> </ul>	■九州大学『都市・建築ワークショップ』への協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>●景観づくり地域団体活動助成金(福岡市)</li> <li>●住まい・まちづくり担い手事業助成金(住まい・まちづくり担い手支援機構)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆西区の宝認定(西区まるごと博物館推進会)</li> <li>◆ふくおか地域づくり活動賞(地域づくりネットワーク福岡県協議会)</li> </ul>
H23年度			<ul style="list-style-type: none"> <li>■景観づくり委員会設立</li> <li>■『姪浜ブランド』の認定</li> <li>■『景観づくり計画』STEP1の策定</li> </ul>	■『地域づくりネットワーク福岡県協議会』への加盟	●景観づくり地域団体活動助成金(福岡市)	◆ふくおか地域づくり活動賞奨励賞(地域づくりネットワーク福岡県協議会)
H24年度		■着物で唐津街道の町並みをそぞろ歩き ■町家コンサート	■『姪浜町家』の認定	<ul style="list-style-type: none"> <li>■総合学習への協力(姪北小)</li> <li>■『全国まちなみゼミ福岡大会』参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●URCAまちづくり企画支援事業助成金(再開発コーディネーター協会)</li> <li>●まちづくり人応援助成金(まちづくり市民財団)</li> </ul>	◆まちづくり人認定(まちづくり市民財団)
H25年度	■登録文化財みそ蔵 特別公開 ■子どもまちなみ探検隊	<ul style="list-style-type: none"> <li>■『景観づくり計画』STEP2の策定</li> <li>■子ども落書き消し隊</li> <li>■『姪浜景観まちづくり宣言』の作成</li> <li>■地域の方から『姪浜相撲甚句』『史跡巡りの歌』の贈呈</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■『まちなみネットワーク福岡』への加盟。第1回まちなみフォーラム福岡を姪浜で開催</li> <li>■『福岡県美しいまちづくり協議会』への加盟</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●街なか再生助成金(区画整理促進機構)</li> <li>●ふくおか地域貢献活動サポート事業補助金(福岡県)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆福岡県共助社会づくり表彰協働部門賞(福岡県)</li> <li>◆日本まちづくり大賞及び福岡支部賞(NPO福岡都市計画家協会)</li> <li>◆あしたのまち・くらしづくり活動賞振興奨励賞(あしたの日本を創る協会)</li> </ul>	
H26年度	3rd ステージ 登録文化財のみそ蔵を中心とした姪浜のまちなみの個性の再構築 次のステージに向けた『姪浜ネクスト』の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■海からまちを眺める遊覧船ツアー</li> <li>■みそ蔵の再生・活用に向けた活動</li> </ul>	■『姪浜景観づくりの手引き』の発行		<ul style="list-style-type: none"> <li>●ふくおか地域貢献活動サポート事業補助金(福岡県)</li> <li>●公益信託 大成建設自然・歴史環境基金(H26.12~H27.11)</li> </ul>	◆まちづくり優秀賞(日本建築士会連合会)
H27年度		<ul style="list-style-type: none"> <li>■新たなまち旅プロジェクトの発掘・夏休み親子まちなみ探検隊</li> <li>・遊覧船から見る花火大会</li> <li>・寺社講話&amp;紅葉巡りツアー</li> <li>・白うさぎ伝説と桜の名所巡り&amp;姪浜ブランド店巡り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■『みそ蔵活用計画』の策定</li> <li>■姪浜ネクストの推進(TEAM姪浜ネクスト発足)</li> <li>■新案内所の移転、改修</li> <li>■『姪浜まち旅プロジェクト計画』の策定</li> <li>■まち歩きマップの改訂(来訪者、店舗、姪浜地域、協議会のWin-Win-Win方式)</li> <li>■街なか再生助成金の活用企画(ニュースレターの発行、暖簾による修景事業等)</li> </ul>	■総合学習への協力拡大(姪浜小、愛宕小)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まちづくり人応援助成金(まちづくり地球市民財団)</li> <li>●街なか再生助成金(区画整理促進機構。H28.2~12)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆都市景観大賞 景観教育・普及啓発部門大賞(国土交通大臣賞)</li> <li>◆ふるさとづくり大賞団体表彰(総務大臣賞)</li> </ul>
H28年度	初代事務局長として、精力的に様々な活動を企画・実践し、多くの成果を残す。H28.5.31次のステップアップを図るため、10年という節目を機会に協議会を卒業。地域内外の皆さま、長い間のご支援ありがとうございました。					

## (5) 活動概要

まずは、筆者が中心となって企画・実践してきた多彩な活動の概要を紹介する。一つひとつの活動は、オーソドックスなものであるが、まちづくりの課題や熟度に応じた多彩な活動を展開してきた。「こだわり」「おもてなし」「多彩」「粘り強さ」「地道」をテーマにした10年間の精力的な活動により、姪浜の魅力及び協議会の活動を全国に発信してきた。

### 活動概要（各ステージの地域課題、活動目標、活動内容）

#### ◆ 1st ステージ（主に平成19年度～21年度）

- 地域課題：地域住民自身の地域の魅力の認識不足
- 活動目標：地域の魅力の再認識と地域内外への発信
- 活動内容：「まち歩きマップやかわら版の発行」「まちづくり活動拠点の設置」等による姪浜の見どころ・活動の情報提供  
「景観歴史発掘ガイドツアー」「国の登録有形文化財でのみそ蔵コンサート」「歴史ある寺社での灯明コンサート」等の多彩な町並みイベント

#### ◆ 2nd ステージ（主に平成22年度～25年度）

- 地域課題：①地域のまちづくりの方向性が不明確  
②まちづくりの効果の具現化（具体的に目に見える形で示す）
- 活動目標：①地域協働のまちづくり計画の策定  
②景観まちづくりの実践
- 活動内容：①住民参加のワークショップ等による「元気！姪浜計画」や「景観づくり計画」の策定  
②「町家再生の実践」「旧町名表示板の設置」「姪浜ブランドの認定」「姪浜町家の認定」等の具体的な活動を展開し、目に見える形でまちづくりの効果を伝えてきた。  
③「子どもまちなみ探検隊」や「子ども落書き消し隊」等の次の世代を担う子どもたちを対象にした景観づくり普及活動

#### ◆ 3rd ステージ（主に平成26年度～27年度）

- 地域課題：①景観づくりの実践に向けた意識高揚  
②平成25年末に味噌の製造場としての約1世紀の役割を終えて閉店した、地域の歴史的・景観的シンボルであるマイヅル味噌のみそ蔵の再生・活用  
③みそ蔵に代わる地域のシンボルとなる新たな魅力スポットや、姪浜らしさにこだわった多彩な事業の発掘・発信
- 活動目標：①国の登録文化財のみそ蔵を中心とした姪浜のまちなみの個性の再構築  
②次のまちづくりのステージに向けた『姪浜ネクスト』の推進
- 活動内容：①「姪浜景観づくりの手引き」の発行・活用による地域への普及活動  
②マイヅル味噌のみそ蔵の再生・継続的活用に向けた活動  
③次のまちづくりのステージ「姪浜ネクストの推進」に向けた活動  
多彩なよかところを再発掘・活用する「姪浜まち旅プロジェクト計画」の展開

(6) 主な活動内容一覧

段階	活動内容	活動開始年度								
		H 19	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27
1 s t s t e r j i	地域の魅力資源調査	●								
	地域の魅力資源集の作成	●								
	まち歩きマップの作成・発行	●								
	まちづくり講演会・シンポジウム	●								
	景観歴史発掘ガイドツアー	●								
	みそ蔵コンサート	●								
	版画展・町家展	●								
	先進都市調査		●							
	まちなみパネル展		●							
	他団体との交流・連携活動		●							
	町家再生の実践			●						
	灯明コンサート			●						
	旧町名表示板の設置			●						
まちづくり活動拠点の開設・運営			●							
2 n d s t e r j i	地域との交流会				●					
	九州大学との連携				●					
	かわら版の発行				●					
	まちづくり計画策定ワークショップ				●					
	「元気！姪浜計画」の策定				●					
	「姪浜ブランド」の認定					●				
	「景観づくり計画」の策定					●				
	「姪浜町家」の認定					●				
	姪浜展を主体としたウィークリー事業						●			
	町家活用イベント						●			
	着物でそぞろ歩き						●			
	地域のシンボルであるみそ蔵の再生・継続的活用に向けた活動							●		
子どもたちを対象にした景観づくり普及活動							●			
景観まちづくり宣言							●			
3 r d s t e r j i	「景観づくりの手引き」の作成								●	
	海を意識したプロジェクト								●	
	「TEAM 姪浜ネクスト」の推進								●	
	win-win-win-win方式によるまち歩きマップの作成・発行									●
	ポストみそ蔵としての「まち旅プロジェクト計画」の策定									●
	空き店舗を活用した新案内所の開設									●

筆者の思い出の活動 10 景



みそ蔵コンサート



灯明コンサート



景観歴史発掘ガイドツアー



遊覧船ツアー



着物でそぞろ歩き



筆者の思い出の活動 10 景



子ども落書き消し隊



旧町名表示板、横浜町家認定



かわら版、まち歩きマップ、まちづくり計画書



NPO 日本都市計画家協会賞でのプレゼンテーション  
(日本まちづくり大賞受賞)



ふるさとづくり大賞受賞式

## 2 活動のポイントと継続的で多彩なまちづくり活動の成果

### (1) 活動のポイント（事務局長として工夫したこと）

筆者が唐津街道姪浜まちづくり協議会の事務局長として精力的に活動した期間（平成19年3月～28年5月）において、事務局長として工夫したことは、次の点である。

- ①各段階の地域課題に対応した長期的展望に立った多彩なまちづくり活動の推進
- ②地域に埋もれている身近な魅力資源の掘り起こし
- ③ヨソモン（地域外の人間）、ワカモン（若者）の視点の活用
- ④計画策定における住民参加、地域との対話や双方向性の確保
- ⑤関係団体、住民、商店、寺社、大学、行政等との協働関係の構築
- ⑥姪浜らしさにこだわった多彩な事業の推進
- ⑦マスコミへの情報発信
- ⑧協議会に参加している地域内外の人々の多様なノウハウ・スキルの活用
- ⑨全国区の助成金へのチャレンジ
- ⑩各種賞の受賞による情報発信

### ①各段階の地域課題に対応した長期的展望に立った多彩なまちづくり活動の推進

各段階の地域課題やまちづくりの熟度に対応した活動目標を立て、長期的展望に立って、多彩なまちづくり活動を段階的・継続的に進めてきた。

段 階	地域課題	活動目標
1st ステージ (H19～21年度)	○地域住民自身の地域の魅力の認識不足	○地域の魅力の再認識と地域内外への発信
2nd ステージ (H22～25年度)	○地域のまちづくりの方向性が不明確  ○まちづくりの効果の具現化 (具体的に目に見える形で示す)	○地域協働のまちづくり計画の策定  ○景観まちづくりの実践
3rd ステージ (H26～27年度)	○景観づくりの実践に向けた意識高揚 ○地域の歴史的・景観的シンボルであるマイヅル味噌のみそ蔵の再生・活用 ○みそ蔵に代わる地域のシンボルとなる新たな魅力スポットや、姪浜らしさにこだわった多彩な事業の発掘・発信	○国の登録文化財のみそ蔵を中心とした姪浜のまちなみの個性の再構築  ○次のまちづくりのステージに向けた『姪浜ネクスト』の推進

### ②地域に埋もれている身近な魅力資源の掘り起こし

全国どこへ行っても同じような街並みの形成が進む中で、地域に埋もれている身近な魅力資源を掘り起こすことが、地域への誇りや愛着を育み、姪浜ならではの地域特性を活かしたまちづくり・景観づくりの土台になると考え、各種事業を推進してきた。



身近なまちかど遺産の掘り起こしの例

**③ヨソモン（地域外の人間）、ワカモン（若者）の視点の活用**

ヨソモン（地域外の人間）、ワカモン（若者）の視点を活用し、長く住んでいると見失いがちな地域の魅力を、外部の人間や若者の新鮮な視点で伝えるよう努めてきた。



**④計画策定における住民参加、地域との対話や双方向性の確保**

地域のまちづくり・景観づくりの方向性を共有し、より実践的なものにしていくため、まちづくり計画や景観づくり計画策定における住民参加、地域との対話や双方向性の確保に努めてきた。



ワークショップ等による地域との対話

### ⑤関係団体、住民、商店、寺社、大学、行政等との協働関係の構築

各事業の実施に当たっては、地域内の関係団体、住民、商店、寺社等の協力を得ながら、お互いに連携して進めていくよう努めてきた。また、九州大学、行政等との協働関係の構築にも努めてきた。



大学、NPO、行政等との連携

### ⑥姪浜らしさにこだわった多彩な事業の推進

姪浜らしさにこだわった多彩な町並みイベントの実施により、多くの参加者に姪浜の魅力を伝えることに努めてきた。



場所へのこだわりも重要

⑦マスコミへの情報発信

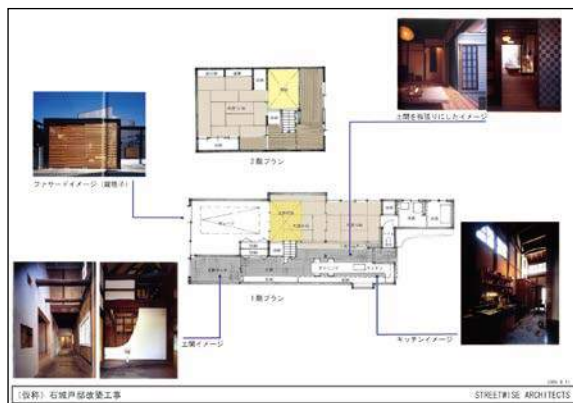
各事業の実施に当たっては、マスコミに取り上げてもらえるような話題性のある活動内容に努め、姪浜の魅力や協議会の活動内容を地域内外に発信してきた。



マスコミに取り上げてもらえるような話題性のある活動内容

⑧協議会に参加している地域内外の人々の多様なノウハウ・スキルの活用

協議会に参加している地域内外の人々の多様なノウハウ・スキルをフルに活用して、多彩な活動を展開してきた。



会員の多様なノウハウ・スキルをフルに活用した事例

⑨全国区の助成金へのチャレンジ

それぞれの時期の課題や目標に沿った活動を推進するため、難関の全国区の助成金に積極的にチャレンジ・採択されることで、協議会活動を加速させてきた。

活動概要	
業種NO	2-59
市町村名	福岡県 福岡市
団体名	唐津街道姪浜まちづくり協議会
活動名	歴史的環境を活かした「住んで良し、訪れて楽し」の町並みまちづくり推進事業

1. 活動地区の概要  
唐津街道沿いの宿場宿屋の「宿場地区」には、築町も中津、近郊の歴史が町並みの中に見え、福岡市内でも数少ない歴史的環境を有している。一方、地区の景観はほぼ全面のアクリルサイン、ポスター、看板、遮断機等が密集しており、街の内外から多くの人々が訪れている。しかし、宿場地区の歴史的な景観は地域内外ともにあまり知られておらず、景観を損ねる人が目撃されることからも、景観の保護と歴史的な宿場地区の活性化の両立を図る必要が認識されている。



2. 活動内容  
(1) 活動拠点（地域の魅力発見拠点、まちの案内所）の運営  
登録有形文化財の境内に開設した協議会の拠点が、まちづくり活動の拠点となるよう運営した。



(2) まちづくり活動の展開  
まちづくり活動を広く地域住民や協賛者に展開することを目的とした「まちづくり支援」を2回開催した。

## みそ蔵を再び地域のシンボルに！ ～姪浜の歴史的・景観的シンボル再生活用プロジェクト～



江戸時代の姪浜と唐津街道（筑前名所図會）

2014年7月  
唐津街道姪浜まちづくり協議会

地域課題に対応した活動推進のための全国区の助成金へのチャレンジ

⑩各種賞の受賞による情報発信

各種表彰にも積極的にチャレンジ・受賞することで、姪浜及び協議会の名前を全国に発信してきた。



様々な賞の受賞により姪浜及び協議会の名前を全国に発信

(2) 継続的で多彩なまちづくり活動の成果

- ①地域住民の地域への誇りや愛着の創出
- ②活動の広がり
- ③地域の歴史・文化・暮らしを踏まえたまちづくりや景観づくりの方向性の共有
- ④まちづくりの効果を具体的に目に見える形で地域に示す（まちづくりの効果の具現化）。
- ⑤地域資源の保全・活用に向けた意識醸成と双方向のまちづくりへの展開
- ⑥全国的な評価及び姪浜の魅力の全国へのPR、地域への情報発信
- ⑦身近な地域資源を活かしたまちづくりの他地域への波及効果（今後期待）

①姪浜ならではの魅力資源を活かした多彩な活動 ⇒ マスコミの取材回数が増加 ⇒ 来訪者の増加 ⇒ 地域の魅力の再認識と地域内外への発信 ⇒ 地域住民の地域への誇りや愛着の創出



マスコミの取材回数が増加 ⇒ 地域住民の地域への誇りや愛着の創出

②ヨソモンの刺激 ⇒ 地元会員の増加 ⇒ 活動の活性化 ⇒ 大学、行政、NPO、他地域との協働・連携 ⇒ 活動の広がり

③住民参加のワークショップ等により、地域のまちづくり・景観づくりの総合計画となる  
『元気！姪浜計画』『景観づくり計画』を策定  
⇒ 地域の歴史・文化・暮らしを踏まえたまちづくりや景観づくりの方向性の共有



元気！姪浜計画



景観づくり計画

④まちづくり実践活動の展開

⇒ まちづくりの効果を具体的に目に見える形で地域に示す（まちづくりの効果の具現化）。



旧町名表示板



姪浜町家認定プレート



案内所の開設

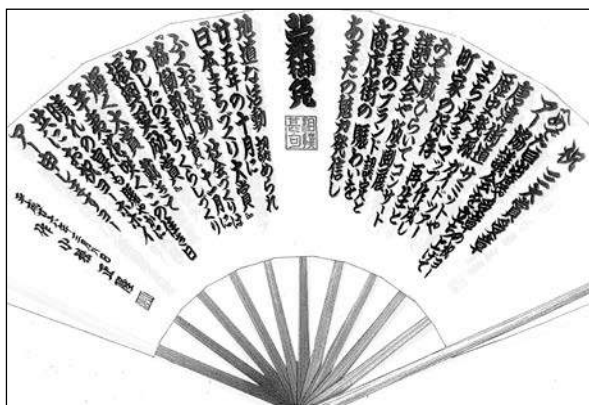


子ども落書き消し隊

⑤自主的に景観形成に配慮した建築物等の増加

地域住民から「相撲甚句」や「史跡めぐりの歌」の贈り物

⇒ 地域資源の保全・活用に向けた意識醸成と双方向のまちづくりへの展開



地域の方々に作っていただいた相撲甚句(左)と史跡めぐりの歌(右)

⑥各種賞の受賞

⇒ 全国的な評価及び姪浜の魅力の全国へのPR、地域への情報発信





マスコミ掲載 ⇒ 地域への情報発信

⑦姪浜での活動成果の発信

⇒ 身近な地域資源を活かしたまちづくりの他地域への波及効果（今後期待）

- ・まちづくりの熟度に応じた多彩な活動の展開
- ・「こだわり」「おもてなし」「多彩」「粘り強さ」「地道」



身近な地域資源を活かしたまちづくりの他地域への発信

## コラム1 まちづくり活動の思い出

筆者が姪浜に関心を持つようになった最大のきっかけは、平成17年3月20日の福岡県西方沖地震である。玄界島の被害の状況が大きくクローズアップされたが、姪浜住吉神社の鳥居・門が倒壊した様子も新聞やテレビで報道された。心を痛めると同時に、「姪浜にはまだこんなに歴史的建造物が残っているのか」と前向きに考えた。これがきっかけで、福岡市都市景観室時代に見落としていた身近な姪浜のまちづくりに取り組むことになった。筆者らがまちづくり協議会を立ち上げたのは、福岡県西方沖地震から2年後の平成19年3月26日である。筆者が49歳の時である。

それ以来、筆者は事務局長として、姪浜ならではのまちづくり推進のための企画立案、関係者との協議・調整、具体的な実践を率先して行う他、会計事務、各種申請事務など時間と労力を要する多くの業務を粘り強く推進してきた。

当初は、活動が軌道に乗るまでの3年間程度は頑張ろうと考えていたが、様々な活動を展開する中でいろいろな成果も表れ、活動も進化させていった。また、それぞれのステージの地域課題に対応したまちづくりの目標を立て、具体的な事業を展開してきた。姪浜への熱い想いを込めた10年間の活動は、「都市景観大賞（国土交通大臣賞）」や「ふるさとづくり大賞（総務大臣賞）」等として評価され、姪浜の魅力や協議会の活動を全国に発信することができた。



福岡県西方沖地震での姪浜住吉神社の被害



地域への想いを込めた多彩な活動のひとつ

このように姪浜という地域は筆者にとって魅力的なフィールドであり、姪浜での10年間の活動はとても充実したものであった。そして、地域内外の多くの方々との出会いが、筆者の活動のエネルギーであり、精力的な活動で得たものも多かった。筆者は、10年という節目に協議会卒業という道を選択したが、これまでの活動を振り返るとともに、環境を変えて、さらに自分を磨いていく絶好の機会と考えたのである。（次ページに続く）



筆者の姪浜での最後の晴れ舞台となった「ふるさとづくり大賞」受賞式

また、筆者には忘れられない言葉がある。「放し飼いの役所職員、固有名詞のある役所職員」。これは、平成 26 年 10 月の(公社)日本建築士会連合会のまちづくり賞の審査委員会で、ある審査員が筆者に付けた呼び名である。筆者は役所から決して放し飼いにされているわけではなく、唐津街道姪浜まちづくり協議会の初代事務局長として長年、市役所の業務の枠を超えて精力的にまちづくり活動に取り組んできた。姪浜への熱い想いを込めた活動は、全国レベルの賞を何回も受賞するなど、多くの成果を上げてきた。そういう意味では、筆者にふさわしい呼称であり、誇りにしたい言葉である。もっと聞こえのいい言い方をすれば、「業務の枠を超えて地域に飛び出す公務員」ということなのだろうか。

筆者は平成 30 年 3 月末で福岡市役所を退職し、「放し飼いの役所職員、固有名詞のある役所職員」も卒業するが、退職後は市役所の業務や姪浜でのまちづくり活動の経験を活かし、「放し飼いのまちづくり人、固有名詞のあるまちづくり人」として、まちづくり活動や執筆、講演等を通じて、いろいろな地域で「身近な地域資源を活かしたまちづくり」を支援していきたいと考えている。

【審査講評（抜粋）】

○よそ者の建築士が活動し、景観形成まで手がけるという活動。その中に自治体の職員もいたということ。地域活動に役人が主体的に参加することは立場上難しいところがあり、地域の個性を大切にしたいという強い想いを持つ職員が「放し飼い職員」として果たした役割も大きいと感じた。今後とも、固有名詞のある役所職員として頑張ってもらいたい。

日本建築士会連合会のまちづくり賞での公開プレゼンテーション⇒  
(上2枚の写真は日本建築士会連合会提供)



姪浜でのまちづくり活動の経験を活かした執筆活動や講演活動